

試験報告書

依頼者 シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 低濃度オゾン発生装置 Airness ANS-1601

表題 除菌効果試験

2017 年(平成 29 年)02 月 15 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

除菌効果試験

1 依頼者

シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社

2 検体

低濃度オゾン発生装置 Airness ANS-1601

3 試験概要

試験菌液を塗抹した寒天平板を試験平板とした。試験ボックス(容積：100 L)内に検体及びふたを開けた試験平板を設置し、依頼者指定の条件で検体を作動させた。所定時間保存後、試験平板を取り出し、培養後に試験平板上の生育集落数を計測した。

4 試験結果

結果を表-1に、試験条件を表-2に示した。

なお、培養後の試験平板を写真-1及び2に示した。

表-1 試験平板上の生育集落数計測結果

試験菌	対象	生育集落数(/枚)
MRSA	検体*1	0
	対照*2	189

*1 試験ボックス(容積：100 L)内に検体及びふたを開けた試験平板を設置し、検体を依頼者指定の条件で作動させながら24時間保存

*2 検体を設置しない密閉容器(容積：9 L)内で保存した試験平板

表-2 試験条件

試験菌液	試験菌	<i>Staphylococcus aureus</i> IID 1677 (MRSA)
	試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35 °C±1 °C, 18~24時間培養した後, 生理食塩水に浮遊させ, 菌数が約10 ³ /mLとなるように調製した。	
試験平板	普通寒天培地をプラスチックシャーレ(φ90 mm)に20 mL分注し, 固化させた後, 試験菌液を0.1 mL塗抹した。	
試験操作	検体及びふたを開けた試験平板を試験ボックス(容積: 100 L)内に設置し, 検体を依頼者指定の条件(High)で作動させた。24時間保存後に試験平板を取り出し, 35 °C±1 °Cで1日間培養した。	
対照	検体を設置しない密閉容器(容積: 9 L)内で保存した試験平板	



写真-1 MRSA 検体



写真-2 MRSA 対照

以 上

試験報告書

依頼者 シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 低濃度オゾン発生装置 Airness ANS-1601

表題 除菌効果試験

2017 年(平成 29 年)02 月 15 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

除菌効果試験

1 依頼者

シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社

2 検 体

低濃度オゾン発生装置 Airness ANS-1601

3 試験概要

試験菌液を塗抹した寒天平板を試験平板とした。試験ボックス(容積：100 L)内に検体及びふたを開けた試験平板を設置し、依頼者指定の条件で検体を作動させた。所定時間保存後、試験平板を取り出し、培養後に試験平板上の生育集落数を計測した。

4 試験結果

結果を表-1に、試験条件を表-2に示した。

なお、培養後の試験平板を写真-1及び2に示した。

表-1 試験平板上の生育集落数計測結果

試験菌	対 象	生育集落数(/枚)
カンジダ	検 体*1	0
	対 照*2	192

*1 試験ボックス(容積：100 L)内に検体及びふたを開けた試験平板を設置し、検体を依頼者指定の条件で作動させながら24時間保存

*2 検体を設置しない密閉容器(容積：9 L)内で保存した試験平板

表-2 試験条件

試験菌液	試験菌	<i>Candida albicans</i> NBRC 1594(カンジダ)
	試験菌をPotato Dextrose Agar(Difco)で25 °C±1 °C, 2日間培養した後, 精製水に浮遊させ, 菌数が約10 ³ /mLとなるように調製した。	
試験平板	ポテトデキストロース寒天培地[栄研化学株式会社]をプラスチックシャーレ(φ 90 mm)に20 mL分注し, 固化させた後, 試験菌液を0.1 mL塗抹した。	
試験操作	検体及びふたを開けた試験平板を試験ボックス(容積: 100 L)内に設置し, 検体を依頼者指定の条件(High)で作動させた。24時間保存後に試験平板を取り出し, 25 °C±1 °Cで1日間培養した。	
対照	検体を設置しない密閉容器(容積: 9 L)内で保存した試験平板	

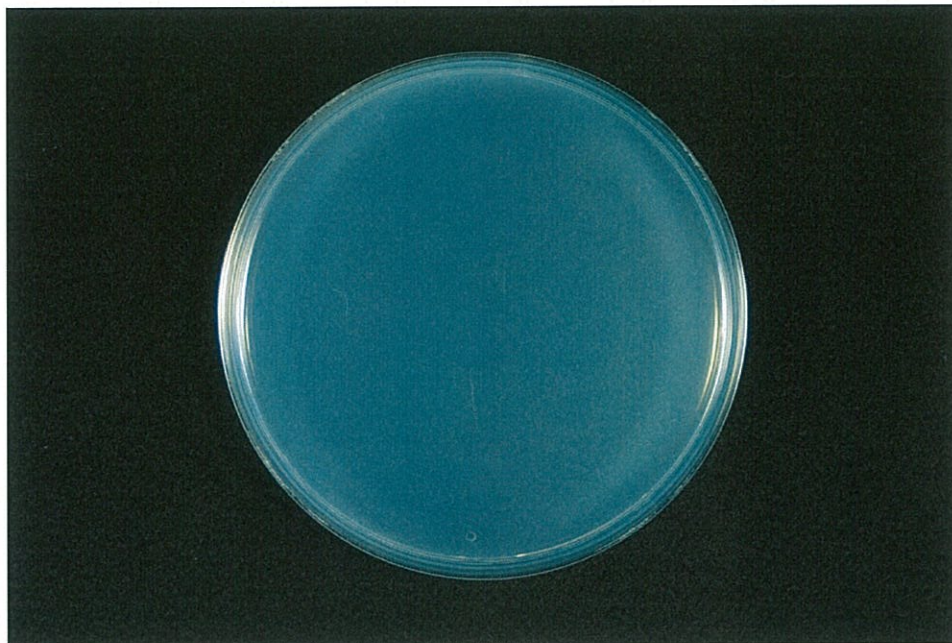


写真-1 カンジダ 検体



写真-2 カンジダ 対照

以 上

試験報告書

依頼者 シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 低濃度オゾン発生装置 Airness ANS-1601

表題 除菌効果試験

2017 年(平成 29 年)02 月 15 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

除菌効果試験

1 依頼者

シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社

2 検体

低濃度オゾン発生装置 Airness ANS-1601

3 試験概要

試験菌液を塗抹した寒天平板を試験平板とした。試験ボックス(容積：100 L)内に検体及びふたを開けた試験平板を設置し、依頼者指定の条件で検体を作動させた。所定時間保存後、試験平板を取り出し、培養後に試験平板上の生育集落数を計測した。

4 試験結果

結果を表-1に、試験条件を表-2に示した。

なお、培養後の試験平板を写真-1及び2に示した。

表-1 試験平板上の生育集落数計測結果

試験菌	対象	生育集落数(/枚)
大腸菌	検体*1	0
	対照*2	146

*1 試験ボックス(容積：100 L)内に検体及びふたを開けた試験平板を設置し、検体を依頼者指定の条件で作動させながら24時間保存

*2 検体を設置しない密閉容器(容積：9 L)内で保存した試験平板

表-2 試験条件

試験菌液	試験菌	<i>Escherichia coli</i> NBRC 3972(大腸菌)
	試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35℃±1℃、18~24時間培養した後、精製水に浮遊させ、菌数が約10 ³ /mLとなるように調製した。	
試験平板	普通寒天培地をプラスチックシャーレ(φ90 mm)に20 mL分注し、固化させた後、試験菌液を0.1 mL塗抹した。	
試験操作	検体及びふたを開けた試験平板を試験ボックス(容積:100 L)内に設置し、検体を依頼者指定の条件(High)で作動させた。24時間保存後に試験平板を取り出し、35℃±1℃で1日間培養した。	
対照	検体を設置しない密閉容器(容積:9 L)内で保存した試験平板	

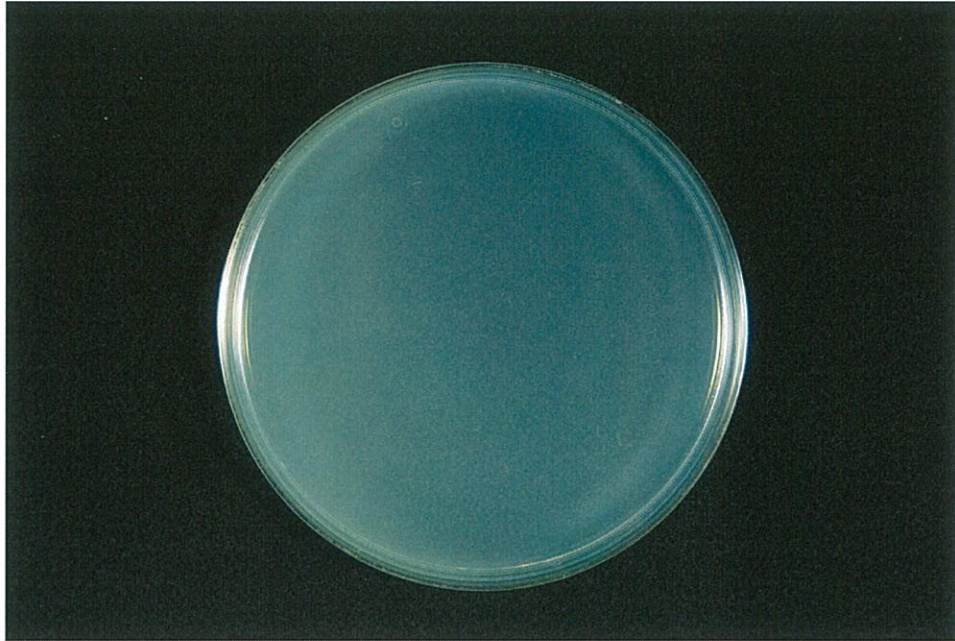


写真-1 大腸菌 検体



写真-2 大腸菌 対照

以 上

試験報告書

依頼者 シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 低濃度オゾン発生装置 Airness ANS-1601

表題 除菌効果試験

2017 年(平成 29 年)02 月 15 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

除菌効果試験

1 依頼者

シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社

2 検 体

低濃度オゾン発生装置 Airness ANS-1601

3 試験概要

試験菌液を塗抹した寒天平板を試験平板とした。試験ボックス(容積：100 L)内に検体及びふたを開けた試験平板を設置し、依頼者指定の条件で検体を作動させた。所定時間保存後、試験平板を取り出し、培養後に試験平板上の生育集落数を計測した。

4 試験結果

結果を表-1に、試験条件を表-2に示した。

なお、培養後の試験平板を写真-1及び2に示した。

表-1 試験平板上の生育集落数計測結果

試験菌	対 象	生育集落数(/枚)
黄色ブドウ球菌	検 体*1	0
	対 照*2	159

*1 試験ボックス(容積：100 L)内に検体及びふたを開けた試験平板を設置し、検体を依頼者指定の条件で作動させながら24時間保存

*2 検体を設置しない密閉容器(容積：9 L)内で保存した試験平板

表-2 試験条件

試験菌液	試験菌	<i>Staphylococcus aureus</i> subsp. <i>aureus</i> NBRC 12732(黄色ブドウ球菌)
	試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35℃±1℃、18~24時間培養した後、生理食塩水に浮遊させ、菌数が約10 ³ /mLとなるように調製した。	
試験平板	普通寒天培地をプラスチックシャーレ(φ90 mm)に20 mL分注し、固化させた後、試験菌液を0.1 mL塗抹した。	
試験操作	検体及びふたを開けた試験平板を試験ボックス(容積:100 L)内に設置し、検体を依頼者指定の条件(High)で作動させた。24時間保存後に試験平板を取り出し、35℃±1℃で1日間培養した。	
対照	検体を設置しない密閉容器(容積:9 L)内で保存した試験平板	



写真-1 黄色ブドウ球菌 検体



写真-2 黄色ブドウ球菌 対照

以 上